

研究内容の説明文

研究課題名	日本人一般集団におけるアレルゲン特異的 IgE/IgG 抗体保有状況の検討 ―日本赤十字社保管検体利用研究― (アレルギー性気管支肺真菌症の新・診断基準の検証と新規治療開発)
研究期間	2016 年 10 月～2018 年 3 月
研究機関名	東海大学医学部
研究責任者職氏名	浅野 浩一郎

研究の説明

1 研究の目的・意義

アレルギー疾患とは、患者さんの体の中でアレルギー原因物質（アレルゲン）に対する過剰な、あるいは異常な免疫反応が生じるためにおきる病気です。血液中の抗体（IgE、IgG）という蛋白を測定すると、どのアレルゲンに対する免疫反応がおきうるかを調べることができ、アレルギー疾患の診断に役立ちます。その際に患者さんのデータと、患者さんと同程度の環境中アレルゲンに曝されてきた一般集団でのデータとを比較することが重要ですが、日本人でのデータはいまだ十分ではありません。

そこで本研究では日本赤十字社で調査用血液として長期保管されてきた血液検体と新規に献血された方の血液検体の残りの試料を利用して、日本人一般集団における様々なアレルゲンと病原体特異的 IgE/IgG 抗体の陽性率を調べ、わが国におけるアレルギー診断の精度を向上させることを目的としています。

2 方法《献血血液の使用法含む》

2005 年（平成 17 年）に献血いただいた後に日本赤十字社で長期保管されてきた血液検体から、年齢、性別、地域ごとに無作為に計 1,920 名分の血清検体を選択します。同様に、2017 年の同時期に東京都内で 20 代及び 40 代男女から献血いただいたものから 400 名分の血清検体を選択します。これらの検体中の総 IgE 値および約 20 種類以上のアレルゲン（昆虫、動物、花粉、カビ、細菌など）に対する特異的 IgE、IgG 抗体価を測定します。

3 予測される研究の成果等

日本人一般集団における性別、年代別、世代別、地域別のアレルゲンへ感作状況が明らかになり、わが国におけるアレルギー疾患診断の精度が向上することが期待できます。

受付番号 28J1067

本研究に関する問い合わせ先

所属	東海大学医学部附属病院 呼吸器内科
担当者	浅野 浩一郎
電話	0463-93-1121（内線 2217）
Mail	ko-asano@tokai-u.jp